

2025年度
国語解答例
（その一）

問題一

問一	問二	問三	問四	問五
ア	一般的には、日本語という言葉が先にあり、それを書き表すために三種類の文字があると考 えられているが、筆者は、三種の文字がそれによってふさわしい意味、表現、文体をもち、その集 合体として日本語が成立していると考えているから。	漢字の「桜」は抽象的で遠景的、ひらがなの「さくら」は具象的で近景的、カタカナの「サ クラ」は学的、生物学的な種を表すというように、三種類の文字で表現される言葉を総合 して日本語の「サクラ」が構成されているという意味。	「春海」に、カタカナの「ノ」を挟み込み「春ノ海」とすると、「はるのうみ」という日本 語の読みが与えられてひらがなの言葉に翻訳されるだけでなく、「はるのうみ」と発音する 熟語として安定させる働きを担うというカタカナの役割。	日本語に漢字の文字を取り入れ、漢字からひらがな、カタカナという文字を作り出し、漢字 に日本語の読みを与えたり、漢字の意味に相当する日本語の言葉を宛てるといった多くの試 行錯誤を経て、日本語が形づくられていったということ。
イ				
迫				
ウ				
若干	寄生虫が宿主から離れるとその利が失われるように、「老女」も「僕」から離れたことで 力を失ったということ。	「老女」も「僕」から離れたことで	一度は一体感を感じるまでに受け入れていた「老女」と離れたことで、喪失感を味わって いる。	でも私
エ				
一端				

問題二

問一	問二	問三	問四
でも私	寄生虫が宿主から離れるとその利が失われるように、「老女」も「僕」から離れたことで 力を失ったということ。	一度は一体感を感じるまでに受け入れていた「老女」と離れたことで、喪失感を味わって いる。	お茶を飲ませようとしたときに「老女」が見せた、無防備に体を預け安心して いる小さくか 弱い姿が、「僕」には赤ん坊のように思えた
			「僕」が「老女」をか弱い赤ん坊や寄生するものとして捉えるようになったうえ、寄生 に否定的な姿勢をとらず宿主として自分が役に立つのならそれでよいという旨の「彼 女」の言葉を思い浮かべた
			印象的な黒さのある瞳をもつ

問題三

問五	問四	問三	問二	問一			
				エ	ウ	イ	ア
伊勢物語は、その場面に合った万葉集の歌を、登場人物である陸奥の女に言わせたのであろうと俊成は考えている。	女は男の歌の意味を取り違えて、自分のことを思ってくれていると誤解したから。	女が人並みでないのに都に連れていくわけにはいかないということ。	和歌の素養が足りない田舎びた人物として描かれている。	なればよかったのになあ	そうはいつでもしみじみ心打たれることだと思ったのだろうか	なまじつか恋で死なないで	切実に恋い慕っている心

問題四

問五	問四	問三	問一	③
			五言律詩	
年をとって楽しいこともなくなり、秋になって寂しげな景色ばかり目につくが、酒に酔えば憂さも晴れるかもしれないので、試しにその宴席を盛り上げる楽隊でも呼ばせてみようという思い。	きつと酒に酔うにこしたことはないであろう。	いかんすべき	問二	